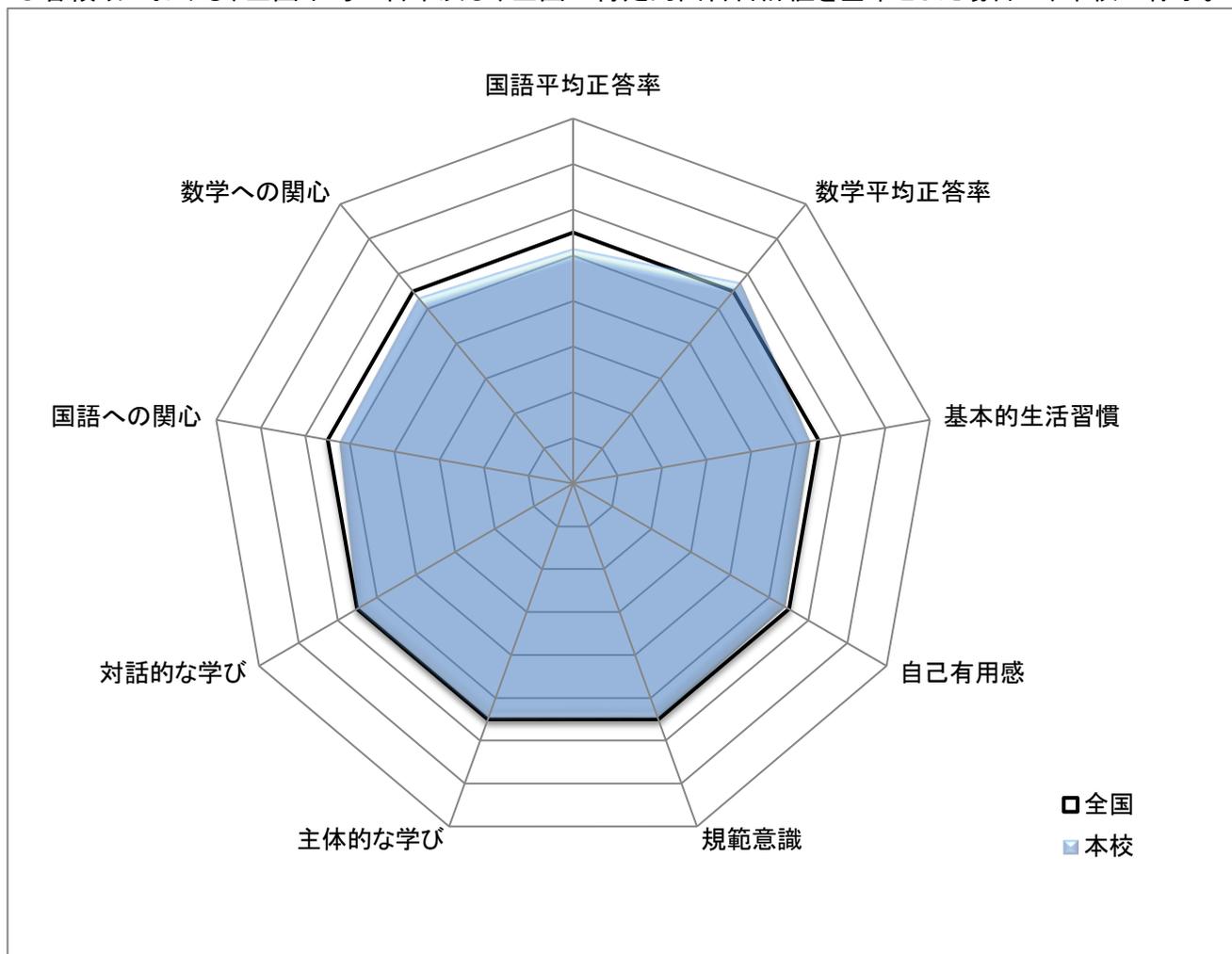


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

【国語】平均正答率全国平均-4.1%
誤答した生徒には、自分の考えが話合いの話題や発言の内容とどのように結びついているのか、つながりが分かるようにまとめることに課題があると考えられる。

【数学】平均正答率全国平均+2.5%
多くの項目で全国平均を上回ったが、学習指導要領の内容 Dデータの活用において、全国平均を下回った。

《授業改善のポイント》

【国語】目的に応じて必要な情報を整理し、自分の考えを工夫してまとめることができる能力等の育成のため、要約、説明、論述、話合い等の言語活動を工夫する必要がある。

【数学】問題を自立的、協働的に解決する過程を重視した問題など主体的な学びを推進し、授業において、日常生活を絡めながら、活用できる知識・技能を習得させることが重要である。

【授業改善に向けた取組】

- ①ICTの利活用による個別最適な学びと協働的な学びの一体的な取組の充実
- ②指導と評価の一体化の推進
- ③主体的・対話的な深い学びの実現に向けた授業改善

《チャートの特徴》

数学平均正答率はを全国平均を上回っており、2.5%以上の高得点を出している。一方で「国語平均正答率」「国語への関心」と「数学への関心」について全国平均値を下回っている。特に国語については、正答率において、全国平均を4.1%下回っており、「国語の勉強が好き」という項目においては、肯定的な意見が全国平均を14%下回っている。「自己有用感」「規範意識」等、基本的な生活についての意識は全国平均と同程度となっている。数学の学習理解については十分高い水準を保っているが、教科等自体に対する興味・関心が高まっている状態とは言えない実情がある。

《家庭・地域への働きかけ》

基本的な生活習慣の定着に向けた声掛けを継続的に行うとともに、地域学校協働活動の一環として、地域で子育てや家庭教育に関する相談にのったり、親子で参加する様々な取組や講座などの学習機会、地域の情報などを提供したり、地域と家庭・学校が共に学ぶ機会を設定する。